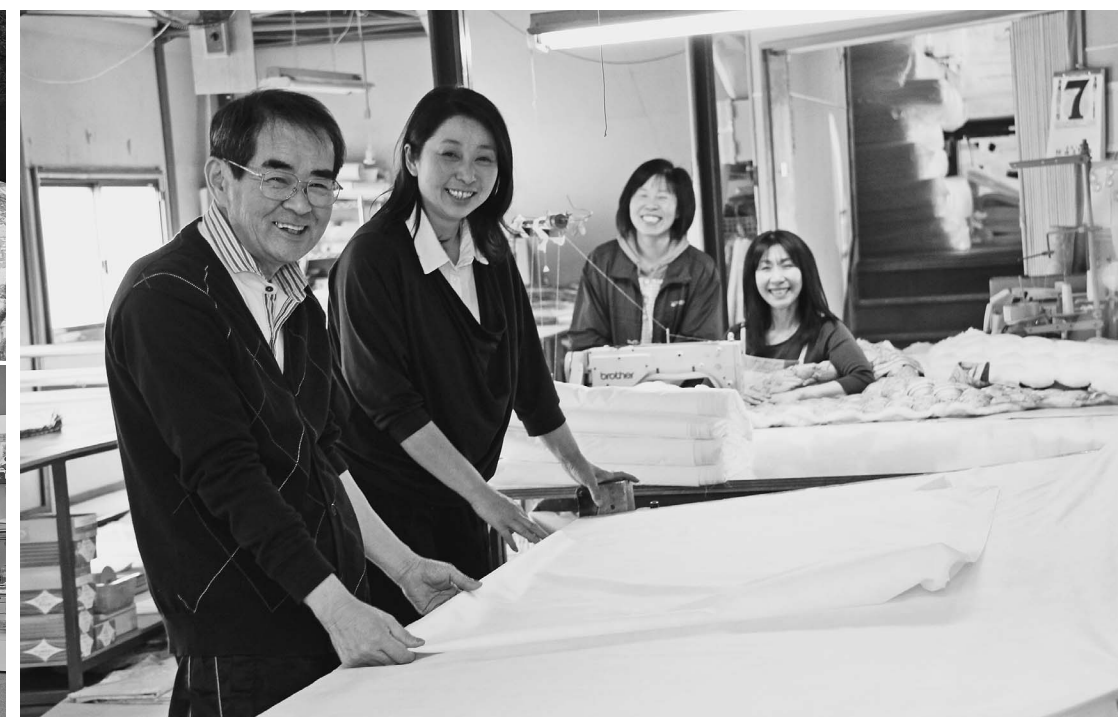


アサギ(株)

人生の3分の1を費やす睡眠の時間、健康の源は安眠・快眠から…。現代は高ストレス社会。今日の疲れをいやし、明日への活力を生み出す。そんな寝具と空間を創造し提案する1906(明治39)年創業の寝具製造・販売の老舗企業アサギ(株)を紹介する。



©2014 MONTEGIO YAMAGATA



(写真右)生産工程のひとつ縫製作業。常に職場は明るい雰囲気にも包まれている(立谷川の工場)
(写真左上)平成25年からモンテディオ山形のオフィシャルコンデショニング寝具サプライヤーに。本社を訪問し寝具に入る石崎監督とティエゴ選手(写真左下)本社をリニエールし店頭での小売販売を本格的に開始する

モンテディオ山形に提供

モンテディオ山形の公式ウェブサイト、石崎信弘監督、FWティエゴ選手が寝具に包まれ、心地よさそうに横になっている写真が掲載されている。「睡眠中に疲労を回復し、試合でベストパフォーマンスができるように」とアサギ(株)は、オフィシャルコンデショニングサプライヤーとなり寝具を提供した。

寝具は腰痛などで悩む中高年齢層が主なお客様です。しかし、これからは若い人たち、ことに運動選手を対象に寝具の持つ効用を知ってもらう必要があります。もちろんJ1昇格へ社を挙げて応援しています。私たちもチャレンジです(浅黄敬之代表取締役)。

アサギの歴史は、谷地生まれの初代浅黄岩太郎に遡る。旅籠町にあった伝法徳蔵という綿屋に丁稚

奉公として住み込み修業、明治39年に独立し六日町で製綿業を始めた。2代目の栄蔵は需要増の波に乗り、ブランド品「日ノ出鶴わた」を発売し評判を得た。昭和44年に立谷川工業団地に新工場を建設。同52年に流通センターに新社屋を置き本社機能を移転するなど今日の基礎を築く。

社名を現在の「アサギ(株)」としたのが昭和57年、3代目慶一氏の時。製造卸売メーカーとして地元小売店をはじめ、ダイエー、ニチイといった全国展開の大規模小売店や、大手メーカーを通じて全国各地の温泉旅館に納入するまで事業が拡大した。

大きく変化する布団素材

この間、素材も大きく変化しました。昭和30年代後半になるとポリエステル(化繊わた)が登場、40年代には羊毛。50年代には水鳥の胸の部分にある羽毛が出始め、あつという間に掛布団の主流とな

り今日に至っています(同)。

羽毛の特徴はその温かさと軽さ。空気を含むことで高い保温力を発揮する。しかも湿気を吸って外に出す力に優れているため掛け布団にうってつけだ。同じ羽毛の量でもダウンパワー(羽毛1g当たりの体積)が大きいほど膨らみが大きく保温力が高い。一方、綿は体から睡眠中に多量に出る汗を吸うが外に出す力が弱い。従って布団が重く体にのしかかり血管を圧迫し血液の流れを弱め体温を低下させる。冷え性には大敵だ。

敷布団にもさまざまな改良が加えられている。就寝時、人間が仰向けに寝た場合、腰部には全体重の約44%の圧力が掛かっている。体圧を分散し、掛布団と同様に血管を圧迫せず血液をスムーズに隅々まで流すことが重要なポイントとなる。

同社は保温力に優れ、吸・放湿性のある羊毛わたを使用し、中に

体圧を点で支えて分散するため固めの凹凸の中芯を挟んでいる。また、腰痛で悩む人に寝具で役に立ちたいと考え、山形をはじめ県外各地の温泉旅館の協力を得てモニター試験を繰り返し行い、改良・改善を重ねて「腰痛専用敷布団」を開発した。生地も利用者の感覚に合わせ、メッシュやシルクといった素材を使用している。

製造卸から製造販売に力

業界は中国製商品輸入による価格競争の煽りを受けて卸先の小売店が減少、さらには一部大規模小売店が倒産したことにより、国内中小メーカーの多くが工場閉鎖を余儀なくされるなど厳しい状況に置かれている。同社の場合、「大規模小売店への納入は製造全体の3割に抑えて置く」と経営方針を定めていたことで、倒産の影響を最小限に食い止めることができたが、同規模メーカーで事業を継続しているのは東北では3社ほどになって

しまった。

一方で、このことが「製造卸」から「製造販売」への転換を促した。ホームページ、折込広告での商品PR、本社での店頭販売、営業部門強化しての新規開拓、自社のロゴマーク入り商品販売へと全社一丸となって乗り出している。

2代目、3代目は全国や県の組合の重責を担い業界の発展に尽くした。その功績が今日のアサギを支えてくれている。「価格競争ではなく品質で勝負」を肝に銘じ、ピンチをチャンスに変えるべく、地元根付いた企業として積極的に「アサギブランド」を打って出ていきたい(同)。

立谷川工業団地にある工場に入ると「こんにちは」と社員の大きな声が響く。中国からの研修生2人もすっかり職場に溶け込んでいる。「元気に乗りのいいのが、わが社の売りです」と夫人の浅黄幸子

さん。また、「お客様の声を直接聞くことが商品づくりにとって最も参考になります。『使って良かった。あの敷布団は腰痛に効くの?もしそうなら送ってほしい』『温かく軽い。ぐっすり眠れた』といった声を聞くとうれしいし励みになります」と話す。

商品開発会議・わた生産・わた入れ・側縫製・キルティング等仕上げ工程・検査管理と業務は多岐にわたる。「次工程はお客様」を行動基準に技術力、設備を生かし日々、山形発のオリジナル商品開発に工夫を凝らしている。

アサギ(株)

創業1906(明治39)年。1956(昭和31)年に浅黄製綿を法人化し株式会社。昭和44年、山形市立谷川工業団地に新工場建設・稼働。同52年に山形市流通センター内に新社屋を建設し本社機能を移転。同57年に社名をアサギ(株)に変更。浅黄敬之代表取締役。資本金2,400万円、従業員50名。本社は〒990-0071 山形市流通センター2-4-1。☎0120-102-287、fax023-633-2290